

TMO(中心市街地活性化)について

《久保》買物公園における高齢者・障がい者・子ども連れの方などの利便性を図ると共に、観光資源としても有効活用できる「レトロバス」を、昭和通と緑橋通を循環運行させてはどうかと提言。

【商工観光部】

費用の捻出、事業主体、運輸局との協議など課題はあるが、中心市街地の活性化として検討に値する。商店街とも協議して、実行の可能性を探りたい。



いじめ防止対策について(CAPプログラムの活用)

旭川市のいじめ防止対策について質疑した。

市は、不登校・いじめ相談室、スクールカウンセラーの配置、リーフレットの作成、いじめ防止強化月間の設置、いじめの早期対応チームの設置などに取組んでいると答弁。

昨年6月に「こんにちは！市長です」で市長とCAPのメンバーが面談したが、平成19年度、CAPの予算はまったく計上されていない。理由は調査研究結果が出ていないこと、財源がないことである。

市長は面談前にCAPプログラムを見学し、すばらしい大切な活動と評価。メンバーからは、子どもたちが小学校6年間で最低1度はCAPプログラムを受けられるように計画を立ててほしい。教職員や市職員に対し、CAPの内容を理解する機会を設けてほしいなどの意見、提言が出されていた。CAPプログラムを市内小学校の1学年全員に受講させるための費用は、子ども、大人、教師用のプログラムをセットした場合でも、年間で約262万円である。

CAPプログラムは、いじめばかりでなくあらゆる暴力から身を守る術を子ども自身が取得できる非常に有効なプログラムであることから、愛別、深川、滝川などで、行政が積極的に予算を付けて取り入れている。

いじめ問題は深刻であることから、調査研究の結果を早急に出し、平成20年度は必ず予算化すべきと指摘した。



CAPとは？

CHILD(子ども) ASSAULT(暴力) PREVENTION(防止) の頭文字

子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力など様々な暴力から自分を守るためのプログラム。子どもを守るためにおとなが一日中そばにいないことができないので、子どもが自分で自分の身を守ること、誰かに助けを求めること、助けを求められたら勇気を持って助けることを、寸劇や話し合いを通じて理解できるプログラム。子どもたちは、大切な権利「安心」「自信」「自由」について学び、自分を守る力を身につけていく。

